

倶多楽火山

○大正地獄の熱泥水噴騰活動

2009年7月中旬から9月の激しい熱泥噴騰活動は衰退し、11月以降、穏やかな噴騰活動が現在まで続いている。

活動の規模を地動振幅で比較すると最近の活動は昨年の同時期よりも大きく、活動の休止期間は4日以上であることが多い。

また11月下旬頃から活動様式が変わり、噴騰活動に先行して、脈動的な熱水流が認められるようになった。

熱水化学組成から推定される深部熱水温度は、やや変動が大きいが、2008年5月から始まる緩やかな温度低下傾向の延長線上にあるように見える。

一方、2010年1月20日には大正地獄に設置した地震計のみに記録される振幅の大きい正体不明のパルス状地動が観測された。類似したパルス状地動は少なくとも7月まで溯って識別することができ、噴騰活動が長期にわたって続いていることもあり注目される。

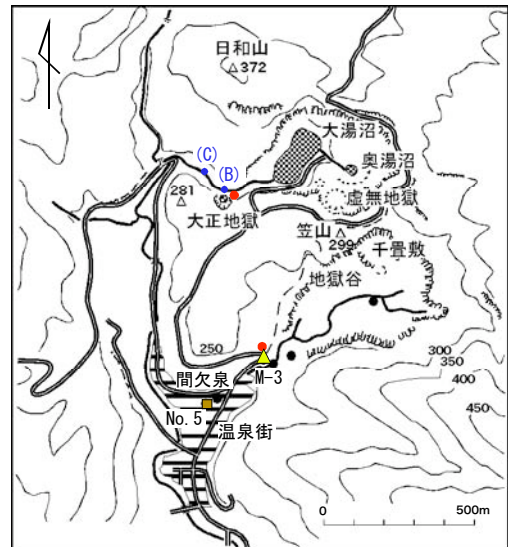


図1. 登別地獄谷(倶多楽火山爆裂火口群)案内図。No5(茶四角)、M-3(黄三角)は熱水採取孔、赤丸は地震計設置地点、青丸は熱水温度測定地点



写真1. 崩壊により露出した展望台支柱。(2010年1月21日)



写真2. 拡大した流出口。右上は支柱が露出した展望台(2010年1月21日)

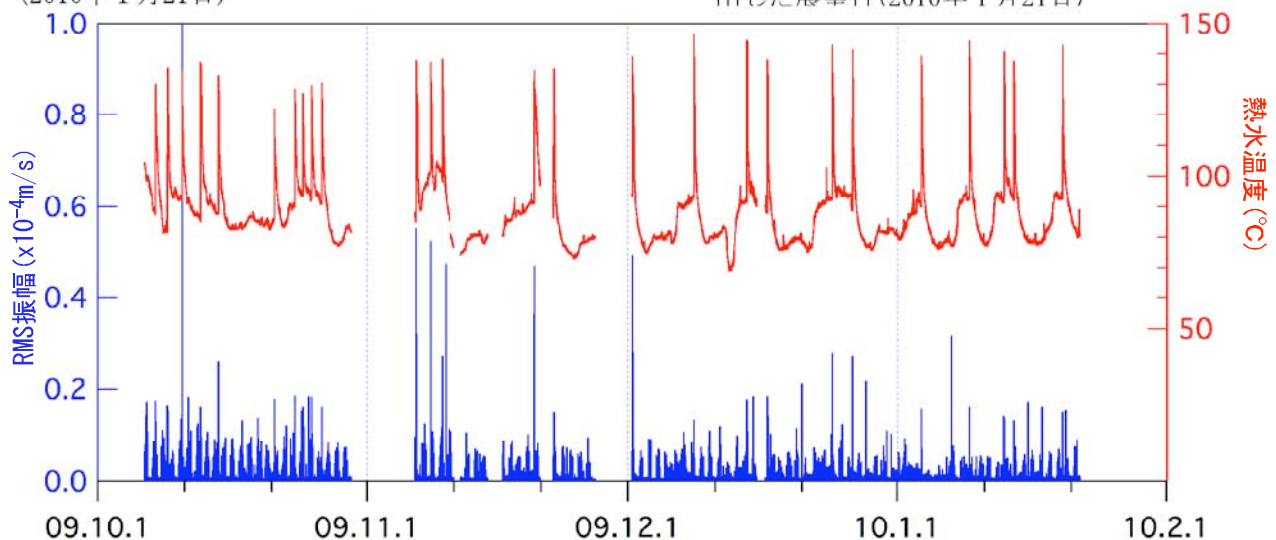


図1. 大正地獄内の熱水温度(赤)と1分間の上下動RMS地動振幅(青)の2009年10月1日から2010年1月21日までの時間変化。温度計設置深度は満水面下約5mである。

(大島・前川・安孫子)

倶多楽火山